

2014年度(第9回)北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権予選競技(道央1地区)

開催日:2014年8月31日(日)

開催コース:札幌ゴルフ倶楽部(由仁)

本競技においてはこのローカルルール・競技の条件と日本ゴルフ協会ゴルフ規則を適用する。

ローカルルール

- アウトオブバウンズは白杭の内側の地表レベルの点で定める。(定義40)
- ウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードが片側だけ定められる場合、そのウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードは無限に広がるものとみなされる。ウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードがアウトオブバウンズで境界づけられている場合、そのハザードの限界はそのアウトオブバウンズの線まで及び、その境界線と一致する。
- No.13ホールにおいて球が特別標示区域(矢印で左右を標示)を最後に横切り、ラテラル・ウォーターハザードに入ったことがわかっているか、ほぼ確実な場合、プレーヤーはゴルフ規則26に基づく処置、または追加の選択肢として1打の罰のもとに、ドロップ区域に球をドロップすることができる。
ドロップ区域を使用する場合、球のドロップや再ドロップに関しては、付属規則I(B)8ドロップ区域の注を適用する。(ゴルフ規則書172ページ参照)
- 修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を定める。ただし、次のものを含む。
 - 張り芝の継ぎ目;規則付I(B)4eを適用する
スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(その芝自体を除く)は、**修理地**とみなされる。しかしながら、継ぎ目がプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則25-1に基づく障害とはみなされない。
球がその継ぎ目の中にあるか、触れている場合、またはその継ぎ目が意図するスイング区域の障害となる場合、規則25-1に基づいて救済を受けることができる。張り芝の区域内のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目とみなされる。(ゴルフ規則書163ページ参照)
- 次のものは動かさない障害物とする
 - 排水溝
 - 人工の表面を持つ道路に接した排水溝(その道路の一部とみなす)
 - 動かさない障害物と定義づけられている区域に近接し白線が引かれた区域は、修理地ではなく、その障害物の一部とみなす。
- No.11とNo.12ホールにある防球ネットによる障害(ゴルフ規則24-2a)のため、ゴルフ規則24-2bの救済を受ける場合には、その障害物の上を越えたり、中や下を通さずにニヤレストポイントを決定しなければならない。
このローカルルールの違反の罰は、2打。
- 次のものはコースと不可分の部分とする
 - 川・池縁保護のための擬木・石。
 - ティーインググラウンド周辺およびウォーターハザードの土留用の材木や、スルーザグリーンの土留めのための材木の側壁。
 - 樹木やその他の恒久的な物件に巻きつけたり、密着させてあるもの。(巻網など)
- パッティンググリーン上の芝張り替え跡は古いホールの埋め跡と同じステータスを持ち、規則16-1cに基づき修理することができる。

競 技 の 条 件

1. 参加資格

競技者は競技規定に定められた資格要件を満たさなければならない。

2. 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

3. 使用クラブの規格

競技者が持ち運ぶドライバーは R&A 発行の最新の適合ドライバーヘッドリスト上に掲載されているクラブヘッドを持つものでなければならない。

この条件に違反するクラブでストロークを行ったことに対する罰は競技失格。(ゴルフ規則 174p 参照)

4. 使用球の規格

競技者の使用球は R&A 発行の最新の公認球リストに掲載されているものでなければならない。

この条件の違反の罰は、競技失格。

5. プレーの中断と再開

(1) 通常のプレーの中断(落雷などの危険を伴わない気象状況)については、ゴルフ規則 6-8b、c、d に従って処置すること。

(2) 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合、同じ組の競技者全員がホールとホールの間をいたときは、各競技者は委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であったときは、各競技者はすぐにプレーを中断しなければならない。そのあと、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。競技者がすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、その競技者は競技失格となる。

(3) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断：短いサイレンを繰り返して通報する。または、本部より競技委員を通じて競技者に連絡する。

険悪な気象状況による即時中断：1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

プレーの再開：1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

6. ホールとホールの間での練習禁止

ホールとホールの間では、競技者は最後にプレーしたホールのパッティンググリーン上やその近くで練習ストロークをしてはならないし、球を転がすことによって最後にプレーしたホールのパッティンググリーン面をテストしてはならない。この条件の違反の罰は、次のホールに 2 打。正規のラウンドの最終ホールで違反があった場合はそのホールに対して罰を受ける。

7. 移動

正規のラウンド中、競技者はコース内に設置してある乗用カートを除き、いかなる移動用の機器にも乗ってはならない。但し、キャディーの乗用を認める。

この条件の違反の罰は、『ゴルフ規則付 I (C)8 移動』を適用する。(ゴルフ規則 181p 参照)

8. キャディー

正規のラウンド中、プレーヤーが委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。この条件の違反の罰は『ゴルフ規則付 I (c)2』を適用する。(ゴルフ規則 177p 参照)

9. スコアカードの提出

本競技においては提出ボックス方式を採用する。(2014-2015 ゴルフ規則裁定集 115p 6-6c/1 参照)

10. 競技終了時点

本予選競技は、競技委員長の成績発表がなされた時点をもって終了したものとみなす。

注 意 事 項

1. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、倶楽部ハウス内並びにスターティングホールのティーインググラウンド付近に掲示して告示する。
2. パッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
3. 予備グリーンは定義上「目的外のパッティンググリーン」であり、球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、プレーヤーは規則 25-3 に基づいて救済を受けなければならない。
4. プレーの進行に留意し、先行組みとの間隔を空けないよう注意すること。プレーの不当な遅延についてはゴルフ規則 6-7 を適用する。(ゴルフ規則 68p 参照)
5. 競技当日のスタート前の練習は指定練習場で行い、打放し練習場においては備付の球を使用し、1人コイン1枚(35球)を限度とする。
6. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消すことができる。

競技委員長 今井 國雄